

平成30年度 学校経営の改革方針 行動計画進捗状況評価表

亀山市立白川小学校 平成31年1月25日現在

重点目標	具体的行動計画の目標（担当）	達成状況・評価結果 成果	課題 今後の方針
<p>【1】全ての子どもに基礎的な知識・技能を身につけさせ、主体的に学ぶ姿勢を育む。（学習者の立場から）</p> <p>《学校評価アンケートで、4段階評価で1が0%・2が10%未満をめざす。》</p> <p>《定着度90%以上をめざす。》</p>	<p>①めあてを知り、見通しをもって学習し、友だちと話し合う中で学習を深める姿勢を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 見通しをもつためあてを設定する。 話し合い場を設定する。 <p>【児童アンケートの肯定的評価90%以上】 (林)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業ごとに「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を大切に、わかる授業に取り組んでいる。 学習環境の整備(教室掲示、授業の流れの掲示など) 授業の他にも、すみがくなどさまざまな学習の中で、児童同士で話し合いながら課題を解決していく活動を取り入れている。 発達段階に応じて、自主学習などでも「めあて」「ふりかえり」を取り入れている。 「学校の勉強がよくわかる」…肯定的評価87% 「おさんは学校の勉強がよくわかっている」…肯定的評価82% 	<p>算数科におけるわたりの学習で、さらに自分たちで話し合いながら問題を解決していくような授業づくりが必要である。</p> <p>5 4 3 2 1</p>
	<p>②書く活動を重視して、ふり返りを大切に、次への学びを追求する姿勢を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「書く」活動を重視して取り組む。 「聴く・話す」力の育成に努める。 <p>【児童アンケートの肯定的評価90%以上】 (林)</p>	<ul style="list-style-type: none"> どの授業でも、基本的にふりかえりの時間を取り、児童一人一人がふりかえりを行うことができています。学年に応じた力をつけてきている。 始業式、終業式、白川っ子タイムで一人一人が発表する時間を取り、話す力の育成に取り組んでいる。 日記、作文、ワークシートや活動のまとめなどの機会を通して、書く力をはぐくんでいる。 自主学習などによる学習意欲の向上をはかっている。 「気づいたことや自分の考えや思いを発表できる」…肯定的評価76% 「自分の考えや感想を書くことができる」…肯定的評価87% 	<p>ふり返りをしたことで、次の授業へのつながりをさらに意識して授業づくりをする必要がある。「書く」「話す」については、語彙力がつくように指導の工夫が必要である。</p> <p>5 4 3 2 1</p>
	<p>③「家庭学習の手引き」をもとに学習準備を確実にし、学習規律の徹底を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 手引きをもとに学習を進める。 <p>【児童アンケートの肯定的評価90%以上】 (林)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習準備について、各学年で指導、授業に臨む姿勢づくりに取り組んでいる。 手引きをもとに、全学年で統一して学習した。 手引きの検討と確認を行った。 「家で自分から進んで勉強している」…肯定的評価76% 	<p>引き続き、学習規律の徹底を図っていく。</p> <p>5 4 3 2 1</p>
	<p>④学校図書館の利用など、読書活動を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書委員会、図書館協力員、市立図書館等の外部機関の活用を進める。 <p>【児童アンケートの肯定的評価90%以上】 (田中)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館環境整備 季節の飾りつけ、書架の配列、読書の記録等の資料作成 市立図書館利用(各月ごとに20冊程度) 図書館アドバイザーによる授業(毎月1回)全学年で実施 図書祭り、読み聞かせなどの取組 図書環境委員による読み聞かせ(白川っ子タイムにて) 読書紹介などのコーナーの拡充 <p>【平均読書冊数一人103.7冊：12月7日現在】 「運動や読書に親しむことができています」…肯定的評価87%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 貸出冊数の増加だけでなく、読書内容における指導もより充実させたい。 国語教科書等に紹介されている本等、学習時期に応じて届け並行読書などに活用する。 <p>5 4 3 2 1</p>
	<p>⑤「家庭学習の手引き」をもとに保護者と協働して、家庭学習の徹底を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の系統性・量的配分の見直しを進める。 補充学習の充実と機会の拡充を図る。 <p>【保護者アンケートの肯定的評価80%以上】 (林)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 宿題をしてくる児童がほとんどであるが、放課後に行う児童が多いため、家庭学習は少ない現状がある。そのため学年に応じて、自主学習に取り組んでいる。 全学年補充学習として夏季休業中に「サマースクール」を実施。 長期休暇中の宿題を全学年を把握し、系統的に出している。 「おさんは家庭学習をしている(学習塾や習い事は除きます)」…肯定的評価50% 	<ul style="list-style-type: none"> 自主学習をさらに充実した内容のものにするために、そのやり方や内容について指導していく必要がある。 <p>5 4 3 2 1</p>
	<p>⑥英語を話したり、ICTを積極的に活用したりする授業の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 簡単な会話ができる。 iPadの授業での活用 児童が操作する授業 <p>【保護者アンケートの肯定的評価80%以上】 (水野)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ふれあい集会では、ALTの先生と簡単な会話をしようという取り組みで子どもたちは積極的に関わりにいくことができた。 6年生は野登小学校と英語を使つての交流ができた。 高学年はiPadを使いプログラミングアプリを使い、算数の文章問題に取り組んだ。 「おさんが家で英語を使う機会が増えたように感じる」…肯定的評価20% 「学校は、授業でICT機器を積極的に活用している」…肯定的評価72% 	<ul style="list-style-type: none"> ALTの先生とのかかわりを積極的に行う。 英語を使つての他校との交流。 算数、国語、社会、理科等教科と絡めてのプログラミング教育。 iPadで写真を撮るなど低学年のうちからiPadに触れる機会をとる。 <p>5 4 3 2 1</p>
<p>【2】子どもに、知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力をつけさせる。（教職員の指導から）</p> <p>《学校評価アンケートで、4段階評価、1が0%・2が10%未満をめざす。》</p> <p>《児童アンケートで自己表現できる子が70%以上をめざす。》 【児童アンケート85%】</p>	<p>①子どもたちの実態を把握し、学習指導に活かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> レディネステストや確認プリント等で到達度を把握し、学習活動に活かす。 <p>【学習定着度テスト定着率80%以上】 (林)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの実態を把握し、到達度を確認しながら学習指導を行うことができています。 個に応じて指導を行うことができた。 学年によっては、苦手分野があり、80%以上の定着を図ることができなかったものもある。 	<p>学習指導に生かす努力ははしてきているが、それが児童の力になるようにさらに生かし方について考えていく必要がある。</p> <p>5 4 3 2 1</p>
	<p>②主体的・対話的・深い学びのある授業に努める</p> <ul style="list-style-type: none"> 意欲的に学び、人とのかかわりの中で考え、なるほどと感じ、次へとつながる授業をめざす。 <p>【児童アンケートの肯定的評価90%以上】 (林)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが主体的に考え、対話的に授業に取り組めるように工夫をしてくれているが、深い学びということまでは到達できていない。 算数科のわたりの授業でも同様のことができるような授業構成ができていない。 総合的な学習の時間などで、人とのかかわりの中で考える機会はたくさん設定できている。 「授業中人の話を真剣に聞くことができる」…肯定的評価87% 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことを生かして自主学習をしてくるなどの児童の姿を想定しながら授業をつくっていくことが必要である。 算数科のわたりの授業の構成についてさらに研究していく必要がある。 総合的な学習の時間などで得られた人とのかかわりから学ばせたいことをさらに深く掘り下げて、よりよ <p>5 4 3 2 1</p>

平成30年度 学校経営の改革方針 行動計画進捗状況評価表

亀山市立白川小学校 平成31年1月25日現在

重点目標	具体的行動計画の目標（担当）	達成状況・評価結果 成果	課題 今後の方針
	③追究する学びを作り出すために、研修テーマにそった授業改善を進める。 ・ワンダー学習の充実 ・県外研修等によるベンチマーク【一人1回】 【保護者アンケートの肯定的評価85%以上】 （ 林 ）	・子どもたちが自分の考えを発表できるような授業を構成する。 ・研究発表会にむけての校内研修の充実 ・一人1回の授業研究実践 ・しらかわワンダー学習の定着と改善 ・一人1回県外研修によるベンチマークを実施予定 「難しい課題に対しても最後までやり抜こうとする」 …肯定的評価82% 「おさんは自分で判断し何事も最後までやり抜こうとしている」 …肯定的評価75%	5 4 ③ 2 1 ・与えられた課題に対してはとても真面目に取り組む子どもたちに、さらに追究する楽しさを身に付けさせていく必要がある。
	①対話をとおして、主体的に人とかかわる子を育てる。 ・集会で堂々と大きな声で話せる子 ・ふれあい集会やつくしの家などの交流学习で人と積極的に話せる子 （ 水野 ）	・つくしの家の方とのふれあい集会に向けて、なかよし班で季節をテーマに出し物を考えた。ふれあい集会本番、子どもたちはつくしの家の方と触れ合い、達成感を味わうことができた。 ・白川っ子タイムの中に、スピーチタイムを設けたことで、低学年のうちから、全校の前で、自分の考えや気持ちを発表する機会をもつことができた。	5 4 ③ 2 1 ・ふれあい集会は白川小学校での大きなイベント。障害者理解にもつながる。 ・つくしの家の方ともしっかりと積極的に関わることができるような工夫。 ・スピーチタイムでは、声の大きさなど課題はある。
	②体験学習・児童集会等で、子どもの創意を引き出し、達成感が味わえる活動を行う。 【白川っ子タイム年間11回実施】 【体験活動・各学年5回以上の実施】 （ 水野・教頭 ）	・低学年は蚕の学習、中学年は白川そばやお年寄りとの交流、高学年は福祉施設、保育園等を中心に体験活動を行った。 ・白川っ子タイムでは、児童会がゲームを考えたり、学校のルールを考える劇を作ったりし、子どもたちの創意工夫が見られた。	5 ④ 3 2 1 ・白川っ子タイムでは、月の児童会目標に関わった取り組みがもう少しできると良い。
【3】共に生きる大切さがわかる子を育て、豊かな人間性を養う。 （独自能力から） 《学校評価アンケートで、4段階評価、1が0%、2が10%未満をめざす。》	③特別な教科道徳やすみがくタイム等で、心を揺さぶる活動場面やなかまとの関わりを高め合う場面を設定する。 ・道徳の系統性や内容を見直し実践を進める。 ・人権学習に重点を置いたすみがくタイムの充実を図る。【年間8回実施】 （ 藤尾、林 ）	・すみがくタイムを全職員で6回実施することができた。（1月11日現在。1月、2月に各1回実施予定） ・すみがくタイムの事前に指導案検討を行うことで、教職員が一貫した指導を行うことができた。 ・昨年につづき、人権的な内容に重点をおいたことで、指導内容を前回の学びにつなげたり、振り返ったりしながら指導ができ、学びをより深めることができた。 ・人権フォーラムの還流をすみがくタイムとつなげることで、よりよい時間になった。	5 ④ 3 2 1 すみがくタイムで人権的な内容やなかまづくりの内容を継続的に指導していく。 人権フォーラムの還流とすみがくタイムをこれからもつなげていくとよい。
《活動後のふりかえりで、肯定的評価の児童が80%以上をめざす。》	④各アンケート(Q-U、仲間づくり、いじめ体罰等)を実施し、全体で交流し検証して指導に生かす。 ・スクールカウンセラーの活用 【全学年・年間2回以上の実施】 （ 谷、田中 ）	・仲間づくりアンケート、いじめアンケート、Q-Uなどのアンケートを行った。また、アンケートをもとに全職員で情報交換を行い、児童の実態把握につなげた。 ○月に1回、スクールカウンセラー来校日を設定した。スクールカウンセラーには、児童観察や保護者、教諭の相談に対応してもらった。	5 ④ 3 2 1 ・アンケートだけではなく、子どもとの教育相談を行い、職員間で情報の共有を行う。（学校生活、友だち関係、家庭での状況など）
	⑤食育、保健指導などを通して、児童の健康安全の意識を高める。 【年間 各学年2回以上の実施】 （ 藤尾、立松 ）	・食に関する年間計画をもとに、栄養教諭による授業を実施した。また、毎日の給食の時間に、食に関する原稿を放送し、食材や食の文化に親しむことができた。 ・1学期は菌について、2学期はアウトメディアについて、全学年に、発達段階に合わせて、保健指導を行った。 ・夏休みに「すくすくカレンダー」の取り組みをしたことで、自分の生活を振り返らせることができた。	5 ④ 3 2 1 ・食育、保健指導は3学期も各学年1回以上実施予定。 ・冬休みも「すくすくカレンダー」を実施し、自分自身で健康な生活を心がける意識を育てる。
	⑥体力テストの検証や、体力向上外部講師などの活用を通して、児童の体力向上に努める。 【体力テストの全学年実施】 （ 水野 ）	・全国運動能力調査【体力テスト】の全学年での実施。 ・体力向上外部講師を招き、跳び箱や水泳などの授業をしていただき児童の体力向上に努めた。（計3回） ・体育放送委員による体育タイムを計画し、ドッジボールや水泳などを実地した。	5 ④ 3 2 1 ・今後も体力向上外部講師を招き、児童の体力向上につなげる。また、詩道のポイントを教わる。 ・体育放送委員の体育タイムを続け、児童の主体的な活動を活かす。
	⑦豊かな自然・伝統ある校舎を大切に、学校環境を整備し、落ち着いて学べるよう努める。 ・FBC花壇の整備 ・炭焼き小屋周辺の整備 （校長）	・地域の方のお世話のなり、3・4年生の児童を中心に、種まきから定植まで順調にすることができた。また、酷暑や台風を乗り越え、きれいに花を咲かせることができた。おかげで、内閣総理大臣賞受賞した。 ・ピザ窯をメインに広場の整備を進めることができた。 ・炭焼きをし、失敗もあったが、化粧炭を焼くことができた。	⑤ 4 3 2 1 広場の地域への開放も含めた利用を検討していきたい。
【4】保護者・地域・三重大学等との連携を大切にしながら、生きる力の基礎を育む。 （社会との調和から） 《学校評価アンケートで、4段階評価、1が0%、2が10%未満をめざす。》	①コミュニティスクールを通して保護者・地域・学校の連携を深める。 ・コミュニティスクール立ち上げ ・年間6回の会議開催 （教頭）	・校庭の除草作業のため、PTA奉仕作業の日を地域と共同作業としていただいた。 ・コミュニティスクールが立ち上がり、CS事務員の方に本校HPの充実を図っていただいた。 ・教育環境の整備に尽力いただいた。 ・総合的な学習の時間など、児童の学習のにむけて地域と連携した支援の要となっていた。 ・会議は5回だったが熟議ができた。	⑤ 4 3 2 1 HPの充実や児童の学習支援・教育か教の整備等、地域との連携の要として、今後もさらなるコーディネートをお願いしていく。
	②学校の取り組みや子どもの様子を保護者、地域の方に発信する。 ・学校だよりや学級だより、ウェブページの更新を通じた発信をする。 【各月2回以上】 ・授業参観・フリー参観（特認校）を実施する。【年間4回実施】 （ 教頭 ）	・学校だより、学級だよりや保健だよりの発行により、保護者、地域の方へ取り組みの発信 ・ホームページの更新（随時）による情報発信 【更新回数107回（1/10現在）】 ・配信メールでの情報発信も保護者・学校の相互理解に役立った。	5 ④ 3 2 1 ・今後も地域、保護者の学校教育への理解、支援をお願いしていくため、諸会議で学校の様子を伝えたり、通信、HP等情報発信していく。

平成30年度 学校経営の改革方針 行動計画進捗状況評価表

亀山市立白川小学校 平成31年1月25日現在

重点目標	具体的行動計画の目標（担当）	達成状況・評価結果 成果	課題 今後の方針	
	③保護者や地域の方々の学校行事への参加を促し、学校経営の改善につなげる。 【年間のべ300人以上の参加】 【保護者アンケートの肯定的評価80%以上】 （教頭）	・運動会、米づくり、そばづくり、FBC花壇等学校行事への参加・保護者参加（137人）、地域の方々（73人）【延べ人数】の参加がみられた。 ・土曜授業、日曜参観等の保護者の参加（122人） 地域の方々（45名）【延べ人数】 ・「学校は地域の方々の学校行事への参加を促している」 肯定的評価100%	5 4 3 2 1	・今後も地域、保護者の学校教育への理解、支援をお願いしていくため、諸会議で学校の様子を伝えたり、通信、HP等情報発信していく。
	④三重大学等との協働行事及び共同研究を行う。 （白川ふれあい集会・キャンプ・授業研究・合同研究会等） 【年間2回以上】 （教頭）	・高学年キャンプ(8/7) 三重大生ボランティア8名参加 ・白川ふれあい集会(11/22)の参加、交流（三重大生ボランティア4名参加） ・授業研究会には亀山市の指導主事から助言を頂き、『学ぶ楽しさを感じられる子』の育成につながった	5 4 3 2 1	・三重大学生との共同研究の充実と、さらなる連携のため三重大学森脇教授に本校授業検討会への参加を依頼する。
【5】子どもが輝くために、教職員がやりがいもち一丸となって教育に取り組み、業務の効率化を進め自らの力量向上に努める。 （教職員が生き生きと教育活動に取り組むために） ≪満足度調査において、1・2の合計が20%未満をめざす≫	①教職員満足度調査を実施し、その検証から職場の改善活動に努める。 ・自己目標設定シートの活用 【年1回以上】 （教頭）	・教職員満足度調査結果等をもとに、校内衛生委員会で分析し、職場の課題の確認と改善方策を決定し、取り組んでいる。 ・自己目標設定シートを活用して、自らの学習指導、生活指導につなげている。 ・教員としての資質向上に関する職員研修を実施し、共通理解を図った。	5 4 3 2 1	・教職員満足度調査の結果に安心することなく、日常での教職員同士の声かけ等により働きやすい職場環境づくり。 ・自己目標の目標設定のレベルアップと意識づけ
	②校内衛生委員会を中心に、働きやすい職場作りに努める。 ・勤務時間の縮減（定時退校日、最終下校時刻の確認） ・職員のメンタルヘルス、面談の実施 ・年休・特休等の適正取得 ・パワハラ、セクハラ・過重労働等の研修の実施 【年1回以上】（教頭）	・「安全で安心して働けるような環境や体制が整っている」…94%が肯定的評価をしている。 ・定時退校日を定期的につくり、勤務時間の縮減を図ったが、一斉退校はできなかった。 ・勤務時間後の電話、来校の自粛を保護者・地域に依頼し、緊急の連絡以外はゼロ件であった。	5 4 3 2 1	・年休取得については、十分に取得できていない状況があり、今後積極的に取得できるような職場環境の改善が必要である。 ・「定時退校の日には、遅くとも6時までには退校している」58%⇒80%を目指す。
	③ワークライフバランスを大切にする。 ・元気回復休暇の完全取得 （山本、水野）	・元気回復休暇は、約67%が取得。（12月21日）	5 4 3 2 1	・長期休暇を利用し、元気回復休暇の完全取得を目指す。

※評価…肯定的評価に関しては、 5：95% 4：90% 3：80% 2：60%未満 1：30%未満 を基準とする。